平成30年度　都立学校・学校経営シート

校章

都立大泉高等学校・附属中学校　　併設型

自主・自律・創造
「探究の大泉」

基本情報

所在地	〒 178-0063 練馬区東大泉五丁目3番1号
電話番号	03-3924-0318(高) 03-3923-4107(中)
アクセス	(1)　西武池袋線　大泉学園駅　徒歩　7分 (2)　西武バス　第五上石神井住宅　徒歩7分 (3)　西武バス　石神井郵便局　　徒歩7分
特色ある教育活動 （学校設定科目等）	① 中高一貫教育校。6年間の教育課程のメリットを最大限に活用する。 ② 英語・数学など主要教科に、少人数授業を実施し、きめ細かい指導を展開。 ③ 高校1年で「探究と創造」を実施している。 ④ 部活動や学校行事においても、中高が協力・連携しあい実施している。 ⑤ 土曜授業をはじめ、土曜講座、補習、演習など幅広い内容で実施している。

基本情報

	中学	高校
募集人員	男子60人、女子60人	推薦：男子8人・女子8人、学力：男子31人・女子31人

入学選抜情報　応募倍率

	28年度	29年度	30年度	28年度 推薦	28年度 一般	29年度 推薦	29年度 一般	30年度 推薦	30年度 一般
男子	6.38	6.03	7.10	0.88	1.90	2.88	1.55	2.75	1.67
女子	8.23	7.45	7.10	1.88	1.26	3.00	1.23	4.38	1.77

	中学	高校
生徒在籍数	358名（各学年3クラス計9クラス）	587名　（各学年5クラス　計15クラス）
主な学校行事	体育祭、文化祭、合唱コンクール、語学研修、探究遠足、勉強合宿、修学旅行など	体育祭、文化祭、合唱コンクール、海外修学旅行、球技大会、探究合宿、芸術鑑賞教室、語学研修など
主な部活動	バレー、バスケ、サッカー、ラグビー、テニス、吹奏楽、合唱、演劇、自然科学	水泳、テニス、野球、バスケ、バレー、陸上、ラグビー、吹奏楽、ダンス、演劇、写真、サッカー、山岳
校服 男子	制服	学生服（黒）
校服 女子	制服	セーラー服・リボン / セーラー服・ネクタイ
自律経営推進予算 30年度（単位：万円）	約2,000	その他
学校評価	毎年、学校運営連絡協議会にて評価実施。生徒・保護者から、80％は肯定的。	
ホームページ	http://www.oizumi-h.metro.tokyo.jp/	

目指す学校

自主・自律・創造の教育目標に則り、様々な課題を自らの目で見極め、行動し、解決できる生徒を育て、将来を見通し、国際社会にリーダーとして貢献できる人材を育成する学校を目指す。

	今年度の重点目標	今年度の取組と自己評価
目標①	**生徒の第1志望の進路実現を図る。** 保護者・生徒に対し十分な面接やガイダンスの機会を設け、高い志をもつ勇気と安心感を与える。 進路キャリア部を中心とした6年間を見通した組織的な進路指導体制を充実させ、生徒の進路実現の充実を図る。そのために、進学指導重点校等の指導体制を研究し導入する。	○進路キャリア部を中心に模試分析会、出願検討会を組織的に実施したことで、進路指導に対する共通理解が図れた。 ○各保護者会での進路結果報告会や学習ガイダンスを実施できた。また、卒業生のデータの蓄積から本校独自の指標を整えるなど、中高一貫教育校の進路指導としての業務が、内容・実効性ともに完成に近づいた。 ○今後も生徒の第1志望を大切に、国公立大学への進学指導のノウハウを更に高め、充実させていく。
目標②	**知的探究イノベーター事業の推進を図る。** 知的探究イノベーター推進校として学校全体で知的探究活動を推進するとともに、高校1年で探究合宿及び「探究と創造」を実施することによって探究活動のさらなる充実を図る。	○高校1年生の「探究と創造（QC）」が6つのゼミ、56のテーマで本格実施となった。東京大学、お茶ノ水女子大学、東京学芸大学、早稲田大学などの先生方や大学院生、学部生と連携し、毎週水曜日に2時間実施した。中間発表、最終発表まで円滑に実施できた。2月に鹿児島県で開催された高校生国際フォーラムに書類選考を通過して発表するグループが出たことは大きな成果であった。 ○BYOD研究指定校として、探究活動においてICT機器やスマートフォンを活用したデータ入力等を積極的に実施した。
目標③	**組織的な指導で生徒の学力向上を図る。** 教科主任を中心とした3・6年間の組織的な教科指導計画に基づき、アクティブラーニング、探究型学習の推進を図ることで、生徒の学力向上を図る。長期休業中の講習を進路キャリア部を中心として組織的・計画的に実施することで講習の更なる充実を図る。	○定期的な教科主任会の開催により各教科における6年間を見通した教科指導計画の見直しと検討を進めた。模試分析会における分析結果をもとに、各教科で指導内容の検討を進める体制が整った。 ○アクティブラーニング先進校への視察や探究型学習の教員研修を実施したことで、主体的な学びに対する意識を高めた。 ○進路キャリア部が中心となり、教科主体の補習・補講の提供を確立できた。昨年度以上の講座数となり、生徒の進路別の講座も増やすことができた。今後も、校内の進学指導体制の推進に努める。

数値目標

	今年度の数値目標の内容	27年度 目標	27年度 実績	28年度 目標	28年度 実績	29年度 目標	29年度 実績	今年度 目標	今年度 実績	31年度 目標	32年度 目標	33年度 目標
目標①	国公立大学　現役合格者　　55名	50	24	55	51	55	35	55	34	55	60	65
目標②	難関私立大学　現役合格者　100名	70	61	75	95	100	50	100	50	80	90	100
目標③												